



組立・分解のデザイン世界

組立・分解できる造形ツールで作っていったデザインについてお話ししたい。

多くのランプシェードを作ってきたが、それらの殆どがポリプロピレン (PP) でできている。PPは、折り曲げることができる、比較的熱に強い素材である。水や熱に強い紙といったらわかり易いだろう。このPPに問題点があるとするなら、接着に不向きなことだ。そこで、この問題点を逆手に取ってみた。接着剤を使わない接続方法を選んだのである。この選択は正解だった。大学教員の時、学生たちの作品作りをスムーズに進行させたいと考えた。接着は作り直しが大変だ。そのため、間違えてもその部分を分解して再度組み立て直す方法を取ればよい。

PPは折り曲げに強いので、何度組んで接続しても、壊れずに分解できる。だから、何度も組立てて、制作授業が終わったら分解して元の袋に入れてもらう。接着剤やハサミ、カッターなどが不要、狭い机の上で作業でき、席を汚すこともない。その接続方法は、作品づくりをしていく中で、目的に応じて各種の接続法が作られていった。以下に、それらの接続方法の変遷を述べていきたい。

1. ボタン接続

最初に使った接続方法は、衣服に使う丸いボタンとボタン穴のシンプルな接続方法 (写真1) である。これは星形ランプシェードに多用した (写真2)。シンプルな方法だけにその後いろいろな接続に使っていった。

商業施設の星が丘テラスのXmas用の星 (写真3) と共に、ミニハウス (写真4) の接続に活躍している。このボタン接続から、嵌めてまた外すという組立・分解できる方法が開始されことになる。ボタン穴のスリットは、ボタンの直径より少し小さく作ることがポイントである。差し込むと、小さくパチンと鳴って入り込む。この音と小さな響きが快感になると制作者から好評価を得た。そして差し込んだボタンがスリットから外れにくいことで、作業が確実に進んでいくことが確認できる。また、いざ外すときは少しの力で外れる、パーツ制作者にとってその微妙なサイズ調整が難しくも小さな喜びにもなった。

展覧会を卒業生たちと一緒に20回近く行っている。その卒業生たちの作品は、このボタン接続と次のAi partsの接続を使ったものが多い。

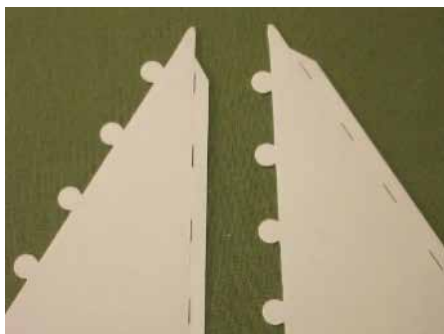


写真1 ボタン接続



写真2 12面体の星



写真3 星が丘テラスの星のイルミネーション



写真4 星が丘テラスのミニハウスの街

2. Ai parts (アイパーツ)

ランプシェードを作り始めて20年以上経つが、その大半がAi parts(写真5)を使った作品制作である。Ai partsとは、△○□を表現した名前である。Aを△で表し、○と□でiを表している。

構成パーツは、写真にある△□の4種類の正多角形を表現したものである。

このAi partsで椋山女学園の幼稚園年長組から大学4年生までの17学年の学年毎に実験授業を行った。その結果、6歳児から実験したわけだが、人の空間・立体把握の能力は10歳～14歳ころまで発達してピークを迎え、それ以降は徐々に衰微していくことが確認できた。

そのAi partsの接続を使って多くの個性ある照明器具をデザインした。その個性を作ることができたのは、接続部分が接続だけの役割から多くの形を表現するものに変化していったからである(写真6)。このAi partsの接続を使った照明器具は、女性的なデザインが多いとよく言われた。ウェディングブーケ(写真7)、リボン(写真8)、ハート(写真9)、オリーブ(写真10)などが代表的な作品だが、女性的というより具象的な作品といったほうが良いだろう。

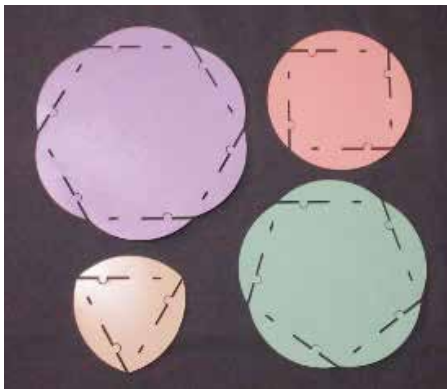


写真5 Ai parts

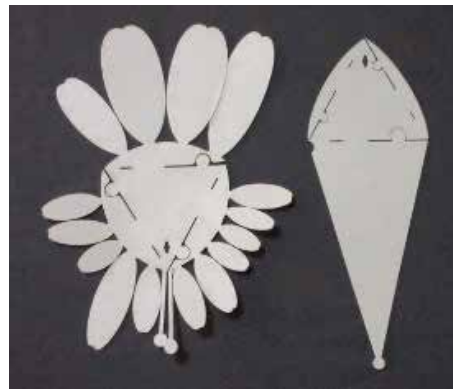


写真6 左ブーケ、右リボン



写真7 ウェディングブーケ



写真8 リボン



写真9 レッドハート



写真10 オリーブ

3.B parts (ビーパーツ)

Ai partsの接続方法は、装飾的な作品に発展していったが、シンプルな形に戻って作品作りをしたのがB parts (写真11フローラシリーズ)である。多角形パーツの鋭角部分にスペード型の差込を付けてその内側にスリットを空け、接続はこの差込部分とスリットを互いに差し込み合って接続するものである。

この接続パーツは、1か所の接続に2回の行為が必要だが、その良さは大変外れにくいことと、境界線に対して直角にしっかりと接続されることである。つまりAi partsのような不安定な接続ではないことだ。もちろん、あいまいな接続にはならないから、遊びの融通性を期待することはできない。

この接続方法で作ったのがフローラシリーズ (写真12)である。材料の取り都合が大変によく、低コストで制作できる矩形パーツは、コストパフォーマンスの良いデザインになった。ここで作ったパーツ (フローラシリーズ)は、7つの作品となり、写真はそのフローラシリーズの1作品のブロッサムである。このパーツの考え方で大学の桜を飾る桜行灯 (写真13)となり、そして PP製パーツの曲面の美しさを最大限に生かそうと、正方形パーツを丸めて花を表現した作品、ローズ (写真14)に発展した。

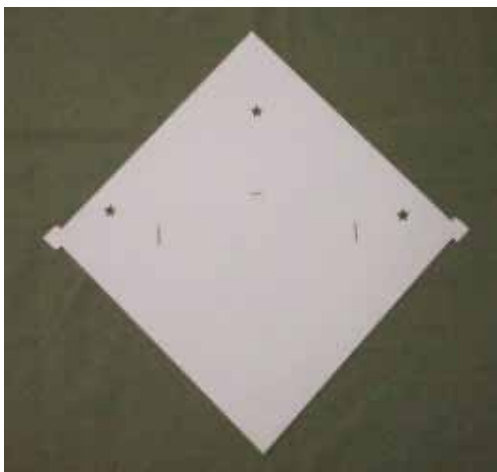


写真11 B parts

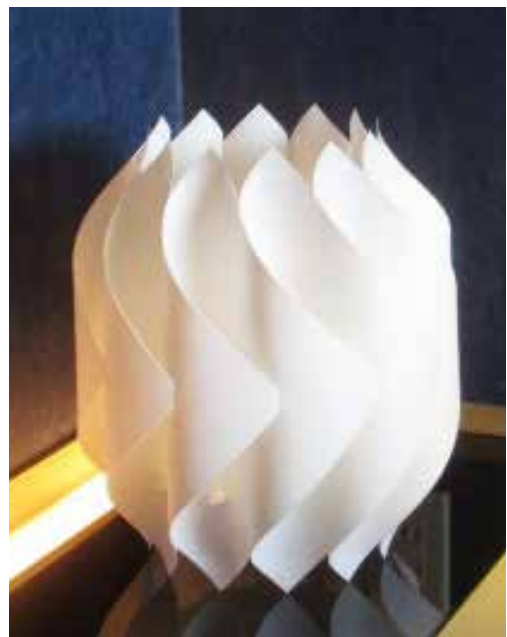


写真12 フローラシリーズ (ブロッサム)



写真13 桜行灯



写真14 ローズ

